

## 医療安全ガバナンスの時代

酒井 亮二

国際医療リスクマネジメント学会・日本医療安全学会 理事長

マネジメント、コミュニケーション、そしてガバナンスの 3 つが、現代社会の抱える様々なリスクへの対応手段です。

「ガバナンス」の和訳とされる「統治」という言葉は、市民中心の現代社会では復古的、陳腐な言葉であり、ガバナンスに対する今日の世界的認識から著しくかけ離れています。

20 世紀末に環境科学者、環境行政研究者たちにより「リスク・ガバナンス(Risk Governance)」という考え方を生み出されました。このリスク・ガバナンスでは企業体も関与することから、経済学を中心としてコーポレート・ガバナンスという考え方も派生しました。

その過程で、21 世紀当初の英国において、全国規模での深刻な医療事故への対応の仕組みとして、「臨床ガバナンス(Clinical Governance)」という考え方が提起されました。ガバナンスを「危機対応の合理的なあり方」とする市民社会的な考え方とすれば、医療事故の対応にはガバナンスは不可欠です。

今、世界における医療安全のガバナンスは勃興期です。英国の提唱する臨床ガバナンスの考えも未完成で、医療安全ガバナンス研究は市民社会における医療施設の難問を解決します。

医療安全ガバナンスは、医療事故発生以前の臨床リスクガバナンス、そして医療事故発生後の臨床クライシスガバナンスの 2 側面から構成すべきです。医療事故に対する遺族の声に耳を傾けるにつれ、日本医療界でもそれらのすべてが全く遅れている、と痛感する次第です。

以上の背景から、世界と日本の医療安全の 2 つの学術団体として、医療安全ガバナンス活動の普及を今年度から重点的に開始した次第です。